

JIS B 7506 … 2004年3月20日改正

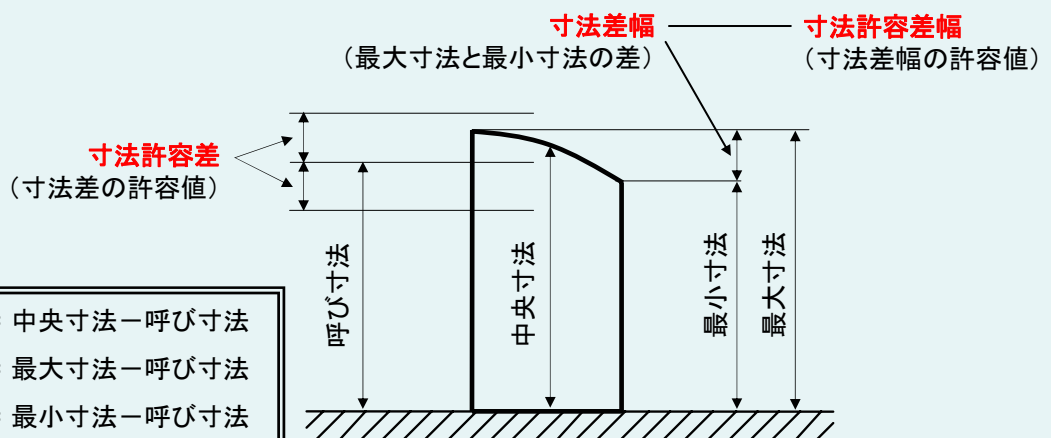
ゲージブロックの用語が変わりました

97年度版 JIS「ブロックゲージ」は国際規格 (ISO 3650) との整合を重視し制定されました。今回、この規格について表現が紛らわしく理解し難い用語、表現を中心に改正が行われました。公差のような数値的な変更はありません。

主な用語の改正点

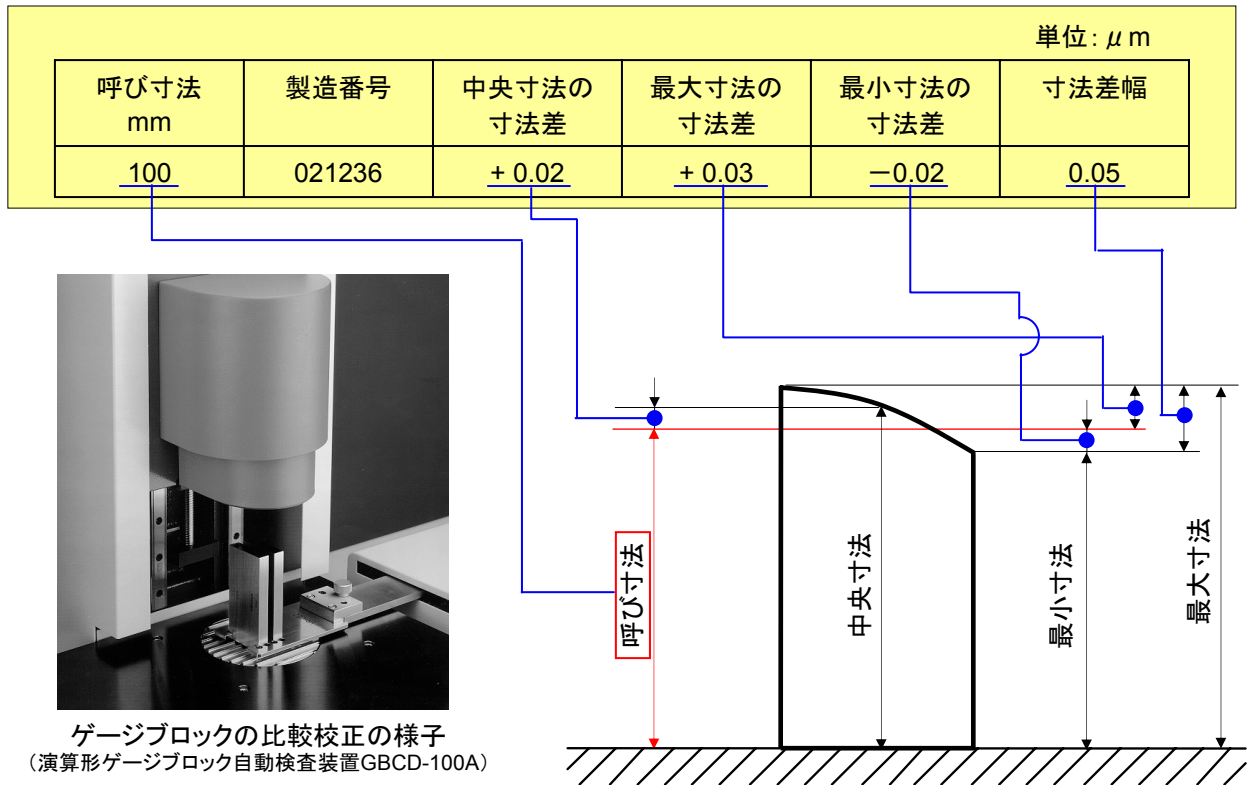
- (1) 「任意の位置における呼び寸法からの“寸法偏差”」を“寸法差”に変更
97年版JISではISO規格の“Deviation”の用語に従って“寸法偏差”に置き換えていましたが、(2)の用語と紛らわしく、混乱を避けるため“寸法差”となりました。一言で言うと“寸法差とは実測値と呼び寸法の差”です。
- (2) 「ブロックゲージの“寸法偏差”」を“寸法差幅”に変更
ISO規格では“Variation”の用語で表現されています。(1)の用語と紛らわしく、混乱を避けるために、寸法のバラツキの幅として取り扱い“寸法差幅”となりました。一言で言うと“寸法差幅とは最大寸法と最小寸法の差”です。
- (3) “寸法公差”を“寸法許容差”に変更
“寸法許容差とは呼び寸法からの差の許容値”です。
- (4) “許容寸法偏差”を“寸法許容差幅”に変更
“寸法許容差幅とは最大寸法と最小寸法の差の許容値”です。

2004年版JIS用語



ミットヨは、JIS 改正に伴い2004年8月21日より検査、校正を行うゲージブロックの検査成績書に新用語を採用しています。

検査成績書の記載例



ゲージブロック用語の変更履歴

JIS B 7506			用語の意味
1989年	1997年	2004年	
寸法(寸法誤差)	任意の位置における寸法の呼び寸法からの寸法偏差	任意の位置における寸法の呼び寸法からの寸法差	任意の点における呼び寸法からの差
寸法の許容値	寸法公差	寸法許容差	呼び寸法からの差の許容値
平行度	寸法偏差	寸法差幅	最大寸法と最小寸法の差
平行度の許容値	許容寸法偏差	寸法許容差幅	最大寸法と最小寸法の差の許容値 (寸法許容差の幅ではありません)

参考文献：「JIS B 7506:2004 ブロックゲージ」日本規格協会 発行

豆知識「ゲージブロック？ ブロックゲージ？」

昔からアメリカではGage Block, イギリスでは Slip Gauge 又は Block Gauge が使われていました。日本においては臨JES B 516(1944) 以来ブロックゲージという用語が用いられており、文部省(現文部科学省)の学術用語でもブロックゲージとなっています。

イギリスは1968年制定の BS 4311で Gauge Block を採用、国家規格であるISO規格もGauge Blockを採用しています。

日本は、JIS改正時に審議が行われましたが、学術用語によらない用語を使用することは適当ではないということで現在もブロックゲージを使用しています。ただし、ブロックゲージの英語訳はGauge Blockとなっています。

ミツトヨは商品名としてゲージブロックを使用しています。

臨JES : Japanese Engineering Standards 臨時日本標準規格(1939~1945)

JIS : Japan Industrial Standard 日本工業規格の前身

ISO : International Organization for Standardization 国際標準化機構(国家規格機関)

BS : British Standard / British Standards Institution (イギリス規格協会)